

	学校だより おやまがおか ～全ては、子どもたちの笑顔のために！～	町田市立小山ヶ丘小学校 校長 大川 優 2025（令和7）年 10月 31日 発行 第282号
〒194-0215 町田市小山ヶ丘五丁目37番 電話 042-770-6251 FAX 042-770-6258		

「好きなもの、興味のあるもの」

副校長 向井 俊哉

先日の運動会（ガオリンピック）は天候不順により予定が変わりましたが、多数の保護者の皆様にご理解、ご参観をいただき、ありがとうございました。子どもたちもリハーサル、本番と練習してきた成果を2回発表することができ、充実感、達成感が高まりました。行事を通して一回り成長できたのではないのでしょうか。

話は変わりますが、私には高校生の娘と、中学生になる息子がおります。娘には「バレエをしている子は姿勢がいい子が多い。」と思っていたので、4歳くらいから近所のバレエ教室に通わせていました。しかし、本人は「やりがい」を見出せなかったのか、小学校入学と同時にバレエをやめ、小学校での習い事はピアノと空手（妻の勧め）。中学校では硬式テニス。現在高校ではバンドでギターをし、美術やアニメにも興味があるようです。

一方、息子はというと、姉と同じように小学校ではピアノと空手。中学校では姉と同じ硬式テニス部に所属しています。また、幼い頃に与えた「電車のおもちゃ」に夢中になり、父親としては自分がサッカーを続けていたので、サッカーをさせたいと思っていましたが、今では立派な？撮り鉄君になっています。

好きなもの、興味のあるものに夢中になるには、本人の気質や個性、周りの環境や地域性、指導者や人間関係など様々な要因が考えられます。小学生という多感な時期に様々なものに触れ、選択、体験し認められる経験をすることで、より主体的に物事に取り組めるようになるのではないのでしょうか。

ロサンゼルス・ドジャースの大谷選手は、小学校2年生の時に友人に誘われて野球を始め、幼い頃から自分のなりたい姿を具体的に思い描き、有名な9つのシート（マンガラチャート）に「自分のすべきこと」「目標」「今できること」などについて記入し、努力、実践してきたからこそ、有言実行で夢を叶えることができたのではないかと思います。

また先日、ノーベル生理学・医学賞を受賞した坂口志文さんも「長年好きなことを頑固にやり続けることの大切さ」についてインタビューで答えておられました。

誰もが好きなことを思い描き、目標をもち、努力をすれば理想が叶うとは限りませんが、何かに一生懸命に取り組む姿勢や精神、努力については自分自身が一番分かっていることであり、その自信や精神力はどんな分野でも活かすことができると信じています。

若い人の中には、「自分がどんな仕事に向いていて何をしたらいいか分からない。」という人もいます。しかし、始めから分かって生まれてきた人はいません。小山ヶ丘小学校では、日々の様々な授業、行事、先生や友達とのかかわり合いを通して「好きなもの、興味のあるもの」を見付けられたり、認め合いによって「得意なこと」「自信をもてること」を見出せたりするよう、少しでも子どもたちの未来への手助けができる教育活動をすすめてまいります。